

## 日本機械学会三浦賞を受賞して

創成科学研究科理工学専攻機械科学コース

修士2年 大久保 直哉

この度は、日本機械学会三浦賞という名誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。この受賞は、安井武史教授、南川丈夫元准教授（現阪大教授）、時実悠講師、長谷栄治講師をはじめ、ポストLEDフォトンクス研究所の教員の皆様、そして3年間共に励んだ友人や、学生生活を支えてくださった両親のおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

私は学部4年次から先端フォトンクス研究室に所属し、新しい生体イメージング技術の開発研究に3年間取り組んでまいりました。当初は、機械工学を専門していた私にとって、生体組織の観察・測定や画像処理技術の習得は大きな挑戦でした。しかし、充実した研究設備と、実験結果に関する先生方とのディスカッションのおかげで、一つ一つ課題を克服することができました。

特に、光学技術を駆使した生体計測に関する研究は、従来の機械工学とは異なる視点を必要としました。光の特性を理解し、それを計測技術に応用する過程では、多くの試行錯誤を経験しましたが、その中で学んだ知識や発見の一つ一つが、大きな財産となっています。また、研究活動を通じて、異分野の知識を融合させることの重要性を実感するとともに、先生方や研究室の仲間との議論を通じて、新たなアイデアが生まれる瞬間の喜びを知ることができました。

研究室での3年間は、学術的な成長だけでなく、課題解決能力や協調性の大切さを学ぶ貴重な時間でした。共同研究や学会発表を通じて、自らの研究を客観的に捉え、他者に伝える力も磨かれました。これらの経験は、今後の研究活動や社会に出た際にも、大いに役立つと確信しています。

最後になりましたが、改めて今回の受賞の喜びを申し上げるとともに、ご指導いただいた先生方、研究室の皆様、そして私を支えてくれた家族に心より感謝申し上げます。この受賞を励みとし、これからも研鑽を積み、社会に貢献できるエンジニアとして成長してまいります。

## 日亜賞を受賞して

創世科学研究科理工学専攻機械科学コース

M2 檜垣 将之

この度は、日亜賞という大変名誉ある賞に選出いただき、誠に光栄に存じます。まず初めに、指導教員である安井武史教授をはじめ、pLED 教職員の皆様、そして共に切磋琢磨してきた研究室の友人たちに、心より感謝申し上げます。これまでの学びや経験は、私一人の力では成し得なかったものであり、温かいご支援と励ましの賜物であると深く感じております。

徳島大学入学当初、将来に対する漠然とした不安と夢が交錯していた私ですが、機械科学コースで学ぶ中で科学の魅力に引き込まれ、気が付けば修士課程進学を決意し、日々の研究活動に邁進しておりました。学部時代には「光」をテーマに、一から基礎を学びながら数々の困難を乗り越え、ゼミでの議論や先輩・同僚との意見交換を通じて多くの知見と成長を遂げることができました。研究が思うように進まない時も、教員の的確な指導や仲間の温かい助言が大きな励みとなりました。光に関して全くの素人であった私が研究成果を挙げ、こうした表彰をしていただけたのは皆様にご協力いただけたためであると感じております。

修士課程においては、国内外の学会や共同研究の機会を通じ、常に新たな視点で研究に取り組む重要性を学びました。実験装置の設計・製作や報告会での発表など、さまざまな経験を積む中で、人間としても大きく成長できたと実感しております。これらの修士課程での経験は、今後、博士後期課程へ進学するにあたり、研究者としての堅実な基盤を築く上で、修士課程での研究経験は、非常に重要な財産となりました。

最後に、同じく今年度に修了・卒業される安井研究室出身の大久保直哉君、菊原拓海君の三浦賞および工業会賞の受賞を、心からお祝い申し上げます。また、修了・卒業される先輩や仲間たちの輝かしい成果に改めて祝意を表し、今後とも皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 徳島大学工業会賞を受賞して

創成科学研究科理工学専攻機械科学コース

菊原 拓海

この度、名誉ある徳島大学工業会賞を賜り、身に余る光栄に存じます。受賞にあたり、安井武史教授と時実悠講師をはじめ、ポスト LED フォトニクス研究所の先生方に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

私は、最先端のレーザー技術である「マイクロ光コム」を活用した 6G 通信の実現という先進的な研究テーマに深く魅了され、安井研究室への配属を志願いたしました。本研究は、未開拓領域であるテラヘルツ波をレーザー技術により生成し、次世代無線通信技術の基盤構築を目指すものであり、光学・電気工学・テラヘルツ工学という幅広い専門知識を要するものでした。機械工学を専攻してきた私にとって、これらの領域は殆ど未踏の分野であり、3年間の研究活動は困難との戦いでした。しかし、研究成果を得られた際には、大きな達成感と共に自己の成長を実感することができました。充実した研究設備と、教員の方々との密な対話が可能な環境で研究に従事できた 3 年間は、将来のエンジニアとしての資質を培う極めて貴重な期間となりました。また、国内外の学会での研究発表の機会を数多く頂戴し、かけがえのない経験を積むことができました。そして、その研究成果が評価され、このような栄誉ある賞を受賞できたことは、私の研究活動が実り多きものであったことの証左であると感じております。

来年度より、私は企業にてエンジニアとして新たな一歩を踏み出します。未知の領域に挑戦し、成果を導き出した経験は、今後の新たな挑戦への大きな自信となっております。企業での業務では、これまでの知識が必ずしも直接的に活かせないかもしれませんが、学部生活を含めた 6 年間で培った広範な学識を基盤として、社会に貢献できるエンジニアとなるべく、一層の研鑽を重ねて参ります。

徳島大学工業会賞を受賞して

知的力学システム工学専攻 博士後期課程3年 梶原 新平

この度は、徳島大学工業会賞という大変名誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。博士後期課程での学業および研究の成果を、このような形で評価していただいたことを光栄に存じます。受賞にあたり、まずは直接ご指導をいただいた安井武史教授および南川丈夫元准教授（現 大阪大学教授）をはじめ、研究に行き詰まった際に貴重なアドバイスをいただいた先生方、共に研究を進めた学生の皆様、研究環境を整えてくださったポスト LED フォトニクス研究所の職員の皆様、また社会人学生として研究を支援してくださった所属企業の皆様、そして日々支えてくれた家族に深く感謝申し上げます。

私はポスト LED フォトニクス研究所において、高精度なレーザー光源である光周波数コムを用いた顕微鏡の開発に従事しておりました。この研究では、顕微鏡の構築において光学系の調整が非常に重要です。私は電気工学を専攻していたため、光学系のメカニカルな調整には最初は慣れておらず、実験を始めるたびに光学系を調整して所望の光信号を検出するまで多くの苦労がありました。その過程で、学生の皆様と共に試行錯誤を繰り返し、先生方からアドバイスをいただきながら調整方法や実験データを検討し、何とか研究成果を論文化することができました。職場の皆様と家族の深い理解と支援があったからこそ、社会人と学生の二足の草鞋を履きながら、修了にたどり着けたと存じます。このように多くのサポートを受け、実験系の構築や文章の作成だけでなく、研究としてのものの考え方まで様々な成長を実感できました。

これからは、再び社会人として製品開発の現場に携わることとなります。徳島大学の博士後期課程での経験を生かし、製品開発の現場にしか分からないこと、研究の現場にしか分からないことをつなぐことのできる人材を目指し、精進してまいります。